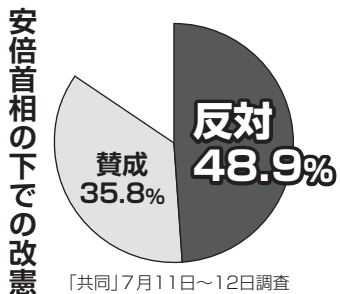
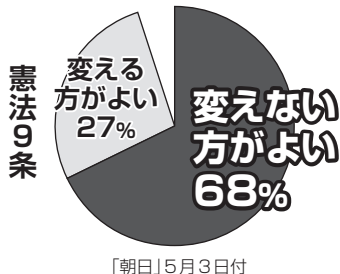


選挙中だんまり「改憲着手」 選挙が終わると

安倍首相は参院選後、明文改憲を「任期中に果たしていきたい」と明言しました。しかし、首相は「選挙で（憲法を）争点とすることは必ずしも必要ない」とのべ、参院選向けの本格遊説開始（6月8日）から投票前日（7月9日）まで100回以上の街頭演説で一度も憲法に触れませんでした。

選挙戦は「憲法隠し」、選挙が終わると「国民の信を得た」と、なし崩し的に改憲に着手—こんな「だまし討ち」は絶対に認められません。参院選後の世論調査でも「安倍改憲」に国民の多数はノーです。



安倍首相「国民「だまし討ち」は許せない

9条を葬り去るのが狙い

安倍首相は、自民党の改憲草案を改憲のベース（土台）にするといいました（7月11日）。自民党の改憲案は憲法9条2項を削除して「国防軍」を書き込むと明記しています。

改憲の狙いは、解釈改憲で安保法制=戦争法を

無条件の武力行使へ

日本共産党

強行したのに続き、条文上も憲法を改定して「二度と戦争しない」と誓った9条を葬り去ることで、「海外での無条件の武力行使」に道を開くものです。

安倍政権がゴリ押しの構え

改憲一気に

医療・介護

安倍内閣は、参院選が終わったとたん、医療・介護の改悪を一気に具体化し始めました。医療では参院選投票日のわずか4日後（7月14日）、75歳以上の窓口負担を現在の1割から2割に倍増する計

画を議論（社会保障審議会・医療保険部会）。介護では要介護1、2と認定された人について、訪問介護の生活援助などのサービスを保険から外すことを議論しています（同20日、同・介護保険部会）。

医療・介護の改悪メニュー	高齢者への負担増		75歳以上の窓口負担を2割に。自己負担の上限引き上げ。介護保険の利用料を2割に
	3割を超える負担に道		「かかりつけ医」以外に定額負担。先発医薬品に負担増
	保険給付の縮小		要介護1・2の生活援助など保険外し。福祉用具貸与の自己負担。市販類似薬の保険外し

安倍首相は参院選中、「成長の果実を子育て支援や介護の充実に使っていく」など、社会保障を充実させるかのような発言ばかりしました。

ところが参院選投票日の夜、「社会保障費の伸びを抑えていくことも大変大切だ」と発言。以後、厚

参院選発言を覆す

労省の社会保障審議会は、関係部会で制度改悪の具体化に乗り出しています。あらゆる世代に負担増、給付減を押しつけるもので、参院選での発言を覆す暴挙です。

日本共産党

裏面で日本共産党の提案を紹介しています